

ま な び や

# 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.46 2017年6月15日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

---

主の聖名を讃美いたします。

なんだか雨の少ない今年の梅雨。正門前の紫陽花は、今年も濃い赤と紫の大輪を競うように咲かせています。階段を降りれば、新たに出現した寮生の家庭菜園に青いミニトマトがたくさん。食べる権利はなくとも、門の開閉で朝晩に出来具合を確かめるのが日課です。先日の地元小学校での星を見る会には年度初めもあって百人以上が集まり、神学生たちの手伝いに助けられました。6月21日が夏至。お昼時に影の小ささを確かめつつ、都心の学び舎も真夏に向かって進みます。

「主はその高殿から山々に水を注ぎ、地はあなたのみわざの実によって満ち足りています」(詩 104:13)

校長 関野祐二

## ● 三週連続の新記録

大盛り上がりの卒業式(何ですかねアレは)、夢うつつのイスラエル撮影旅行(今度はみんなで行きたいな)、重苦しい入学式(脅かし過ぎの疑心暗鬼)を経て、4月3日から始まった前期授業。その週末からいきなり結婚式ラッシュが始まりました。なんと、在校生・卒業生・卒業生の三週土曜日連続記録。礼服を着込んで担当した深夜・苦痛論(言い得て妙だな)をそそくさと閉店し、祝辞原稿を携えて喜びの会場へ。神学校生活は人生時間のほんのひとコマでしょうけど、両人の歩みを知らせる映像を見ると、ここが出会いの場となり、たいせつな働き準備の場だったと実感します。あれは三週目、宴もたけなわで油断していたら、新郎新婦の愛唱聖句箇所が披露された次の瞬間、「では神学校の校長先生に暗唱していただきましょう」とは司会者もグルの陰謀。新郎のはクリアーしつつも新婦のはボロボロで地団駄を踏みました。エレミヤ 29:11、もう忘れません。我ら夫婦は4月で31年目ですが、昨年の30周年には当日夜の授業後にサプライズで在校生の皆さんからケーキとお花のお祝いを受け、心に染みる思い出写真が本棚に飾ってあります。あの時に甘い音色のヴァイオリンを弾いてくれたのが例の新郎。だから今回の件は許してあげますね。

## ● 任期満了と、ばく進中と

私事で恐縮ですが、6月のJEA(日本福音同盟)総会にて、神学委員と委員長を任期満了で退任しました(思わずニヤケ)。長は4年間でしたが、委員は2004年以来の13年間。神学校繋がりの頼まれ職務にしては責任の重い立場でした。9・11とイラク戦争で余儀なくされた原理主義研究(今でも続いています)、日本伝道会議での宣言文起草(発表前夜は眠かった!)、3・11原発事故と自然科学研究(何冊本を買ったことか)、そして昨年9月の日本伝道会議での聖書信仰プロジェクトワークショップ。成果を取りまとめた『聖書信仰の成熟をめざして』ブックレットが先日発売になりましたので、よろしければお読みください(苦労話があとがきに)。意図せずして神学生たちと働きや学びを共有し、「福音派教会の神学アイデンティティ」をいっしょに作り上げて来た日々でした。結果的に神学校へ福音主義神学界の最新情報をもたらすこととなり、

組織神学クラスの課題が増えることにも(スミマセン)。大学の研究室ゼミみたいなものですかね。ところで、全然関係ないのですが最近おいしいコーヒーに凝っています。祐天寺駅近くのコーヒー豆店とすっかり仲良しになり、何人もの教師や卒業生を紹介。そう、牧師にはコーヒー好きが多いのです。某神学校へ特別講義で行ったら、帰りがけに事務所へ連れ込まれ、コーヒーマシン自慢を長々と拝聴。そこまで投資はしなくとも、他に嗜好品をやらない分、豆だけは質の良いものを月に二度ほど買いに行きます。授業にも娘からせしめた赤い保温水筒に淹れたてのコーヒー。時にはそれを飲まないまま教員室で分かち合います。こちらはどうやらまだまだ続きそうですね。

## ● ああ耐震診断、そして

またも建物ネタです。昭和の香り漂うノスタルジックなわが校舎、これだけ地震が頻発し、首都圏直下型の発生確率が上方修正されれば、「形あるものは崩れる」などとのんきなことを言うてはられず、東京都私学財団より専修学校助成金を受けられる目処も立ったことから、昨年度末に耐震診断なるものを実施しました(すごくお金がかかるのです)。構造設計の専門業者にいにしえの図面を提出し、コンクリートのコアサンプルがあちこちから抜かれ、待つこと一ヶ月半。分厚い報告書は当然のことながら、古い建築基準で建てられた校舎の補強必要性を数値化してくれました。加えて、「この土地は地盤がすごくいいですよ」とのお墨付き。そりゃモリヤの山ならぬ大塚山(この界隈の丘)ですから、と妙に納得したのでした。気を良くして次は耐震補強工事の概算見積もり。学校などの窓にバッシンの補強が入る、アレです。しかし、最初に出て来た見積もりがあまりに高額で立ち往生。建物の寿命を考え合わせると、費用対効果は課題山積みです。次の一手をどうすべきか、良き道が開かれるようどうぞお祈りください。シリアスな話題で失礼。

## ● 夏休みまで青息吐息

まずはお詫びから。祈っていただいた「教育課程」の4月プレ開講ですが、予定していたM先生の「ユースミニストーリー」は、平日午前の設定もあって受講希望者が定員に達せず、今回は見送りに。出鼻をくじかれた恰好ですが、会堂建設中のM先生にはじっくり準備期間が与えられたとポジティブに受け止め、仕切り直します。事務方が奮闘して、受講者の多様な状況を想定した煩雑な募集要項(何度見てもアタマ真っ白)も完成し、来年度からの新コース開設に伴う役所への書類提出も完了。祈りと準備が積みまわっていますから、来年度の正式スタートにご期待ください。秋頃には教育課程を含めた新しい学校案内(きっとY先生のステキな表紙)を作成する予定です。今年度の歩みも早6月。GW以後は長期で祝日がなく、気候も不順なため、7月下旬の夏休みまでが在校生にとって最も苦しい時期です。夜授業の合間に木星を見せたり、授業前に声をかけたり(クイズや中間テスト直前は思いっきり嫌われます)、あの手この手で慰めるのですが、さて。そうそう、神学校同窓会も役員若返りで再スタートするようですから、卒業生の皆さんも初夏の疲れをいやすため、神学校へおいでくださいね。キレイなトイレが皆さんをお迎えますよ。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生81名の、夏休みまでの学びと生活が支えられるように。休学者の復学のため。
- ・ 教職員15名の働きと牧会が支えられるように。教師交替時期を見据えての準備と育成。
- ・ 校舎の耐震化工事を含めた将来に向けてのプランニングが良き方向に導かれるように。
- ・ 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。